

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
J104	心理学入門	1年	講義	2	小浜駿
授業概要 入門講義として心理学の基礎的な知見を紹介する。社会現象を扱うという点で、心理学は社会学と同じ側面を有する。そこで、心理学と社会学との違いについても随所で取り上げて説明する。第4回までは心理学の基盤となる知見や思考の枠組みについて概説し、第5回以降で領域別の解説を行う。					
到達目標(学習の成果) 到達目標 心理学の基礎知見について広く理解し、自らの教養として身につける(DP1) 高度な到達目標 講義内容を十分に把握し、コミュニケーションや日常の問題解決に応用できるようになる(DP1)					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	社会学と心理学の違い	本講義の概要を述べ、評価方法や注意事項などについて説明する。その後、社会学と心理学の違いについて概説する。			
2	反証主義と心理学の測定法	心理学の基盤となっている反証主義哲学について概説する。その後、実験法や観察法など、心理学で用いられる測定法について紹介する。			
3	学習と条件づけ	古典的条件づけと道具的条件づけについて概説し、その違いについて述べる。その後、ワトソンの行動主義について述べる			
4	新行動主義とゲシュタルト	ワトソンの行動主義に対する批判と新行動主義(SOR 心理学)およびゲシュタルト心理学について述べる。			
5	記憶	記憶のメカニズムについて概説した後、潜在記憶やプライミングなど、記憶に関する様々なトピックについて紹介する。			
6	感情①	情動という用語について説明した後、情動形成におけるキャノン-バード説とジェームズ-ランゲ説について解説する。			
7	感情②	恥ずかしい、誇らしいなど、近年着目されるようになった高次感情の機能について説明する。			
8	感覚と知覚	視覚や聴覚、皮膚感覚などの諸感覚の特徴について概説したのち、錯視や仮現運動など、代表的なトピックを紹介する。			
9	発達	認知発達や道徳性の発達を中心に、様々な発達現象について概説する。			
10	パーソナリティ	類型論と特性論について述べた後、ミネソタ多面人格テストや5因子性格検査について解説する。			
11	対人関係①	「他者を意識する自分」をキーワードに対人関係に関する心理学的トピックを多数紹介する。			
12	対人関係②	対人ストレスの観点を加えながら、対人関係の否定的な側面について考察を深める。			
13	対人魅力	身体、性格、性差など、対人魅力に影響を与える様々な要因について解説する。			
14	恋愛	Leeの色彩理論や恋愛幻想など、恋愛に特化した現象について解説する。			
15	様々な心理学	進化心理学や犯罪心理学など、近年着目され始めた心理学領域についてオムニバス形式で紹介する。			

準備学修(授業外の自己学修)

受講前にインターネットで「心理テスト」をたくさんやってほしい。専門的に研究されている心理学と世間でイメージされている心理学との違いが新鮮な驚きを生み、学習意欲につながるはずである。また、参考書の記載内容のうち次回講義と関連しそうな部分や興味のある部分を読んでおくとう理解が深まるであろう。

成績評価の方法・基準(%表記)

小テスト 60%、期末テスト 40%で評価する。小テストは第6回終了時と第15回終了時に行い、それぞれ 30%を配分する。小テストも期末テストも多肢選択問題を主とする(持ち込み不可)。

観点	S	A	B	C
幅広い心理学的知識の習得		十分に習得できている	一定程度習得できている	最低限習得できている
コミュニケーションや問題解決への応用	十分に習得できている	一定程度習得できている	最低限習得できている	

教科書

使用しない。毎回授業資料を配布する。

参考書等

『心理学 第5版』(鹿取廣人・杉本敏夫・鳥居修晃編 東京大学出版会 平成27年 2,400円) 本講義の内容と完全には合致しないが、どの章も簡潔で興味深い。是非読むことをお勧めする。

履修上の注意・学修支援

毎回授業感想を記入する時間を設ける。考えついたことは何でも書いてほしい。自分の着想を否定しないことが勉学上達の一番の近道である。